

作者: 不詳

成立: 康正元年(1455)以降?



## 解題

## Keyword

- 永享の乱
- 結城合戦
- 軍記物語
- 「結城戦場記」
- 室町軍記
- 「鎌倉持氏記」
- 「足利持氏滅亡記」
- 「結城戦場別記」
- 「結城戦場物語」
- 「北条記」
- 「相州兵乱記」
- 「鎌倉大草紙」

永享10年(1438)年の永享の乱及びそれに続く結城合戦(1440)を中心に描いた軍記物語。『結城戦場記』ともいう。永享の乱を発端とした諸事件を含め、後の数十年(文明期まで)を記述している。これに関連する軍記は、筆者の立場や形式を異にする類似作品が多く伝えらるほか、叙述の一部分が密接に関連する派生的作品も多く、室町軍記の特徴をよく表す作品群である。

## ■ 永享の乱関係諸軍記の展開

永享の乱関係諸軍記について、その体系を明らかにした梶原正昭によれば、それらは、実録的・物語の2つに大別される。前者として『永享記(結城戦場記)』『鎌倉持氏記』『足利持氏滅亡記』『鎌倉物語』が挙げられ、永享の乱を中心に東国の情勢が記述される。後者は『結城戦場別記』『鎌倉殿物語』『持氏記』『結城戦場物語』『結城軍物語』『結城合戦絵詞』『結城合戦絵巻』『上杉憲実記』等があり、永享の乱後の結城合戦に焦点を絞って足利持氏の遺児2人(春王・安王)の悲劇が潤色多く描写される。

これら伝本の多くが奥書を欠くが、『鎌倉持氏記』と『結城戦場別記』のみに奥書が残る。これによれば、両書は宝徳3年(1451)年の成立と推定される。いずれも作者は争乱の当事者に近い人物と考えられ、実録的性格を帯びる軍記となっているが、『結城戦場別記』は書名が示す通り結城合戦の記述が中心であり、物語の系列への展開を予告している。

これらを踏まえ、『永享記』の成立過程は概ね次のように考えられる。

永享の乱関係軍記源流は『鎌倉持氏記』とみられる。ここから実録的系列の『結城戦場記(永享記)』、物語的系列の『結城戦場別記』が成立する。後者は『鎌倉殿物語』『持氏記』を経て『結城戦場物語』でその頂点を迎える。前者は、更に叙述の一部が密接に関連したり、筆者の立場の異なる作品(『北条記』(#7)『相州兵乱記』(#8)『鎌倉大草紙』(#9)等)の派生へと展開していく。

ただし近年では、『鎌倉持氏記』に先立つ史料の存在を指摘する説(高橋恵美子)や、『鎌倉持氏記』『結城戦場記』『結城戦場別記』を、より複雑な影響関係の文脈で捉える説(山上登志美)もある。

## 「永享記」の成立

『永享記(結城戦場記)』は実録的系列の中心的な軍記である。同書も奥書を欠き、作者・成立時期ともに不明であるが、序章中の記述により康正元年(1455)以降の成立と推測される。また『永享記』には『結城戦場記』と称する伝本が伝えられている。内容はほぼ同一とみなされるが、詳細に分析すると『結城戦場記』がより古態と考えられる。

## 内容

『永享記』の内容としては、以下の19章段(序章を含めると20章段)を指す場合が一般的である。

序：足利氏家系・鎌倉公方系譜、①公方管領不和の事②三浦介逆心の事③箱根早川尻合戦の事④持氏鎌倉へ帰給ふ事付鎌倉合戦事⑤持氏御出家並憲直以下自害の事⑥持氏満貞御最期の事⑦憲実出家の事⑧結城籠城の事⑨村岡合戦の事⑩結城落城の事⑪成氏の御事⑫堀越御所御下向の事⑬京都軍の事⑭古河城の事⑮太田道灌の事⑯太田最期の事⑰山内扇谷不和の事⑱高見原合戦の事⑲早雲蜂起の事。ただし、より原型に近いと考えられる『結城戦場記』は、太田道灌の事以下の5章が見られない。

記述は、やや上杉側に寄ったものとの指摘もあるが、おおむね公平である。多くの史料を基に記述したとみられ、実録性が高く客観的記述の保持に努めたことがうかがわれる。反面、文学性には欠ける傾向が見られる。

## 諸本

永享の乱関係軍記の源流とされる『鎌倉持氏記』の伝本は、国立国会図書館岡山文庫に所蔵される一本のみである。『永享記』の古態とされる『結城戦場記』は、『国書総目録』には項目がないが、内閣文庫(明治15年写)、加賀市立図書館聖藩文庫等で所蔵されている(金沢市玉川図書館近世史料館加越能文庫にも『結城戦場記』と題する史料が所蔵されているが、内容からみて同グループには属さない史料とされている)。『永享記』は、宮内庁書陵部、静嘉堂文庫、彰考館文庫、名古屋市鶴舞中央図書館、京都大学、島原市立島原公民館松平文庫、尊経閣文庫(寛文12年写)、神習文庫、加賀市立図書

館聖藩文庫等での所蔵される。

ただし、既に述べたように、永享の乱関係軍記は多くの派生作品を擁する作品群となっている。『永享記』『結城戦場記』に限っても、伝本が多いうえ書名の混乱が見られ、関連の史料は、上記に加えて多数確認できる。



## 史料本文を読む

### <影印本>

- ◆「永享記」／「結城戦場記」（『軍記物語研究叢書』第6巻 黒田彰編 クレス出版 2005 [913.43/147/6]） ※底本：聖藩文庫本

### <翻刻本>

#### 永享記

- ◆\*「永享記」（『日本歴史文庫6』黒川真道編 集文館 1911）  
※底本：続群書類従本 国立国会図書館「近代デジタルライブラリー」で閲覧可
- ◆「永享記」（『続群書類従』第20輯上 合戦部 巻第575 [081/2/20-1]）
- ◆「永享記」（『改定史籍集覧』第12冊 別記103 近藤出版部 1926 [210.08/13/12] [K24/214(覆刻:臨川書店)])

#### 結城戦場記

- ◆\*山川登志美「翻刻『結城戦場記』」（『日本文芸論叢』片山亨編 和泉書院 2003） ※底本：金沢市立玉川図書館加越能文庫本



## 史料についてさらに知る－参考文献－

- ◆梶原正昭「持氏記(解題)」(『中世文学 資料と論考』伊地知鉄男編 笠間書院 1978 [910.24/34])
- ◆\*長谷川端「結城戦場記の成立と変容」(『結城市史 第4巻 古代中世通史編』結城市 1980)
- ◆梶原正昭「永享の乱とその関係軍記」(『室町軍記総覧』古典遺産の会編 明治書院 1985 [913.43/10])
- ◆\*若林秀幸「研究展望 室町軍記」(『軍記と語り物』(22)軍記物談話会 1986)
- 『室町・戦国軍記の展望』梶原正昭著 和泉書院 1999 [913.43JJ/128]
- ◆佐藤陸「永享の乱関係軍記の成立と拡散」(『承久期・後期軍記の世界』長谷川端編 汲古書院 1999 [913.43/123/10])
- ◆佐藤陸「永享記の源流 鎌倉持氏記と二つのリライト」(『武蔵野女子大学文学部紀要』(2)武蔵野女子大学 2001 [Z051.3/157-1])
- ◆山上登志美「永享の乱・結城合戦関係軍記の検討－主として『鎌倉持氏記』『結城戦場記』『結城戦場別記』の関係をめぐって－」(『軍記物語の窓』第2集 関西軍記物語研究会編 和泉書院 2002 [K97/146/2])
- ◆\*高橋恵美子「結城戦場別記の成立意義」(『軍記と語り物』(39)軍記・語り物研究会 2003)